教科	科目	単位数	対象学年
国語	論理国語	文系３　理系２	５年

１．学習の到達目標等

到達目標	実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力を身につける。文章読解を通して、「思考力・判断力・表現等」の創造的、論理的思考を身につける。
目標を達成するための留意点	授業を大切にすることを基本とし、必要な物を準備し、主体的に授業に参加する姿勢を付ける。授業中は、教師の説明や指示を注意深く聞き、またグループ学習において、他者の意見を聴き、自分の考えを伝えることが出来る力を身につける。ノートは板書や教師の説明等を、丁寧な字で確実に書くようにし、復習時に要点が理解できるものを作る。 家庭学習において、授業時に出された課題等に丁寧に取り組み、復習をする習慣を身につける
使用教科書	『論理国語』（筑摩書房）
使用副教材	『実践記述用教科演習』（尚文出版）　　自主教材 「文学的文章副読本」「資料読解問題集」
評価基準	知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の観点に基づき、小テスト及び定期考査・提出物・授業態度などを総合的に判断して評価する。
学習内容	言語知識　・現代文の読解の根幹となる知識（常用漢字・抽象概念語句・用語）の運用の確認をする。 論説文・評論文 ・論理的文章の読解を通して、様々なテーマに対する教養的知識を理解す、自分の視野を広げる。 ・論理構成を検証し、文章の要旨、筆者の主張を読み解くことを学習する・ ・実社会において必要となる、論理的に書く力、また批判的に読み自らの考えと比較する能力を学ぶ。 詩歌・文学的文章 ・文学的文章の読解を通して、時代背景・思想・心情理解につなげる。 ・作者や登場人物の心情理解から、他者としての登場人の生き方、考え方を多角的に読み取り、自らの生き方を見つめる材料とする ・短詩形文学の学習を通して、様々な修辞技法を学びその使用意図を理解するとともに、自分の表現に活用することを学ぶ。

２．指導計画

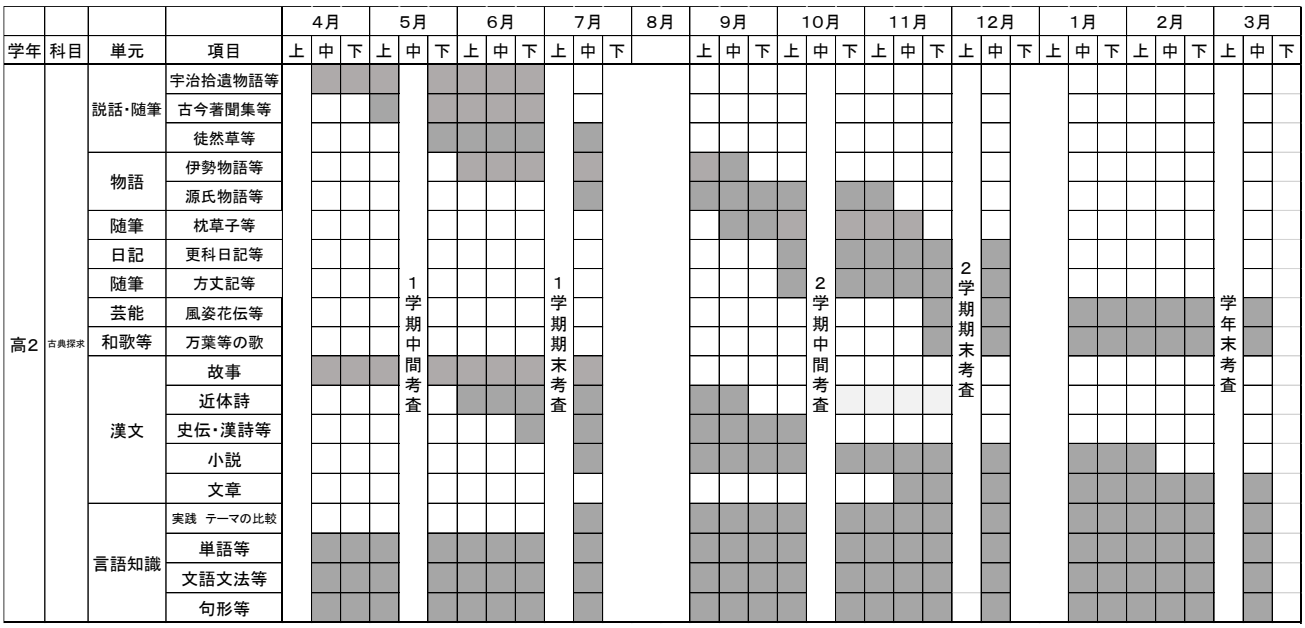
				4月			5月			6月			7月			8月	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
高2	論理国語	評論	「近代の成立」等		■	■	■	1学期中間考査	■				1学期期末考査								2学期中間考査					2学期期末考査											
		実践	論証の作法		■	■	■		■																											
		評論	「人新世における人間」等						■	■	■	■		■																						
		実践	多様な文章に触れる（法令文など）						■	■	■	■		■																						
		評論	「貧困は自己責任なのか」等									■		■			■	■	■	■		■	■													
		実践	データの読みかた																■	■		■	■	■	■											
		評論	「模倣と『なぞり』」																					■	■	■										
		実践	レポートの書き方																					■	■	■										
		評論	「権力とは何か」等																					■	■	■		■	■	■	■	■				
		実践	資料・情報の吟味																										■	■	■	■		■		
		文学的文章	小説・詩歌・短歌等		■	■	■		■	■	■	■		■			■	■	■	■		■	■	■	■		■		■	■	■	■	■		■		
		言語知識	漢字・文語文法・語彙等		■	■	■		■	■	■	■		■			■	■	■	■		■	■	■	■		■		■	■	■	■	■		■		
		資料・データ	資料等の読解		■	■	■		■	■	■	■		■			■	■	■	■		■	■	■	■		■		■	■	■	■	■		■		

教科	科目	単位数	対象学年
国語	古典探究	3	5年

1．学習の到達目標等

到達目標	古典の精神を理解し、自分と自分を取り巻く社会と相対化する力を養う。また、既習の文法の総復習と並行し、作品の自力読解力を養う・さまざまな漢文を読み込み、考察力を高める。
目標を達成するための留意点	授業を大切にすることが基本という意識を持たせる。授業は説明を注意深く聞き、受け身ではなく主体的に取り組ませるよう工夫をする。家庭学習を習慣付けるためにも、授業の復習などの課題を適切に指示するよう心がける。
使用教科書	『言語文化　古文編』　『言語文化　漢文編』（筑摩書房）
使用副教材	『力をつける古文・漢文』（尚文出版） 『入試対策ﾍﾞｽﾄｾﾚｯｸｼｮﾝ古文単語３２５』（尚文出版） 『新明説漢文』（尚文出版）　等
評価基準	知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の観点に基づき、小テスト及び定期考査・提出物・授業態度などを総合的に判断して評価する。
学習内容	古典 説話や物語等、様々な文章に触れ、読解力を高める。 説話・随筆…『宇治拾遺物語』など 物語…『伊勢物語』、『源氏物語』など 日記…『更科日記』など 軍記…『平家物語』など 〇本格的な古文の文章の読解を中心に学習する。『宇治拾遺物語』や『更科日記』や『源氏物物語』など、様々なジャンル、難易度の読解を通して古文読解の方法を学ぶとともに、現代の社会と比較し理解を深める思考力、判断力、表現力を身につける。 漢文 漢詩や思想、史話などの文章に触れ、読解力を高める。『史記』、『戦国策』など。 〇本格的な漢文の文章の読解を中心に学習する。『史記』や『戦国策』などの文章を読解することに取り組む。

2．指導計画



教科	科目	単位数	対象学年
地歴	日本史探究	3	5年

1．学習の到達目標等

到達目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
目標を達成するための留意点	時期や推移などに着目して因果関係などで関連付けて捉え，時代の転換の様子や各時代の特色を考察させたり，歴史に見られる諸課題について，複数の立場や意見を踏まえて構想させたりする。また，課題を設定し，その課題の追究のための枠組みとなる多様な視点に着目して，課題を追究したり解決したりする活動が展開するように学習を設計する。
使用教科書	詳説日本史(山川出版社)
使用副教材	日本史用語集，詳説日本史図録，日本史探究詳説日本史ノート(山川出版社)
評価基準	知識・技能　/　思考・判断・表現　/　主体的に学習に取り組む態度　それぞれの項目に関して，授業・定期考査・課題等を通じて評価する。
学習内容	第Ⅰ部　原始・古代 　第1章　日本文化のあけぼの 　歴史資料と原始・古代の展望 　第2章　古墳とヤマト政権 　第3章　律令国家の形成 　第4章　貴族政治の展開 第Ⅱ部　中世 　第5章　院政と武士の躍進 　歴史資料と中世の展望 　第6章　武家政権の成立 　第7章　武家社会の成長 第Ⅲ部　近世 　第8章　近世の幕開け 　歴史資料と近世の展望 　第9章　幕藩体制の成立と展開 　第10章　幕藩体制の動揺 第Ⅳ部　近代・現代 　第11章　近世から近代へ 　歴史資料と近代・現代の展望 　第12章　近代国家の成立

２．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
5	日本史探究	第Ⅰ部 原始・古代	日本文化のあけぼの					1学期中間考査					1学期期末考査								2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
			歴史資料と原始・古代の展望																																	
			古墳とヤマト政権																																	
			律令国家の形成																																	
			貴族政治の展開																																	
		第Ⅱ部 中世	院政と武士の躍進																																	
			歴史資料と中世の展望																																	
			武家政権の成立																																	
			武家社会の成長																																	
		第Ⅲ部 近世	近世の幕開け																																	
			歴史資料と近世の展望																																	
			幕藩体制の成立と展開																																	
			幕藩体制の動揺																																	
		第Ⅳ部 近代・現代	近世から近代へ																																	
			歴史資料と近代・現代の展望																																	
			近代国家の成立																																	

教科	科目	単位数	対象学年
地歴	世界史探究	3	5年

1．学習の到達目標等

到達目標	「歴史総合」で学んだ学習を前提とし，地球の誕生や人類の誕生を視野に入れつつ，古代文明の形成から現代に至る世界の歴史の展開を扱い，諸地域の歴史的特質の形成，諸地域の交流・再編，諸地域の結合・変容という大きな枠組みを基に，世界の歴史を大きく捉える。
目標を達成するための留意点	◆授業を中心に教科書・図説・プリント・世紀別地図などを活用して，世界の歴史の流れを整理・理解させていく。◆人名や事件の名称を単に暗記するのではなく，歴史事象の背景や結果とその影響などを，多角的・多面的に理解・考察できるようグループワークなどを用いていく。◆『総合マスター世界史』や授業内の確認問題などを定期的に解き，主体的・客観的に理解度を確認できるようにしていく。
使用教科書	詳説　世界史（山川出版社）
使用副教材	世界史用語集（山川出版社），総合マスター世界史（浜島書店），世界史詳覧（浜島書店）
評価基準	知識・技能／思考力・判断力・表現力／主体的に学習に取り組む態度　それぞれの項目に関して，授業・定期考査・課題等を通して総合的に評価する。
学習内容	第Ⅰ部　諸地域の歴史的特質の形成 第１章　文明の成立と古代文明の特質 第２章　中央ユーラシアと東アジア世界 第３章　南アジア世界と東南アジア世界の展開 第４章　西アジアと地中海周辺の国家形成 第５章　イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 第Ⅱ部　諸地域の交流・再編 第６章　イスラーム教の伝播と西アジアの動向 第７章　ヨーロッパ世界の変容と展開 第８章　東アジア世界の展開とモンゴル帝国 第９章　大交易・大交流の時代 第 10 章　アジアの諸帝国の繁栄 第 11 章　近世ヨーロッパ世界の動向 第Ⅲ部　諸地域の統合・変容 第 12 章　産業革命と環大西洋革命 第 13 章　イギリスの優位と欧米国民国家の形成 第 14 章　アジア諸地域の動揺

２．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月	9月			10月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	中
5	世界史探究	文明の成立と古代文明の特質	文明の誕生					1学期中間考査					1学期期末考査								2学期中間考査	
			古代オリエント文明とその周辺																			
			南アジアの古代文明																			
			中国の古代文明																			
			南北アメリカ文明																			
		中央ユーラシアと東アジア世界	中央ユーラシア																			
			秦・漢帝国																			
			中国の動乱と変容																			
			東アジア文化圏の形成																			
		南アジア世界と東南アジア世界の展開	仏教の成立と南アジアの統一国家																			
			インド古典文化とヒンドゥー教の定着																			
			東南アジア世界の形成と展開																			
		西アジアと地中海周辺の国家形成	イラン諸国家の興亡とイラン文明																			
			ギリシア人の都市国家																			
			ローマと地中海支配																			
			キリスト教の成立と発展																			
		イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	アラブの大征服とイスラーム政権の成立																			
			ヨーロッパ世界の形成																			
		イスラーム教の伝播と西アジアの動向	イスラーム教の諸地域への伝播																			
			西アジアの動向																			
		ヨーロッパ世界の変容と展開	西ヨーロッパの封建社会とその展開																			
			東ヨーロッパ世界の展開																			
			西ヨーロッパ世界の変容																			
			西ヨーロッパの中世文化																			
		東アジア世界の展開とモンゴル帝国	アジア諸地域の自立化と宋																			
			モンゴルの大帝国																			
		大交易・大交流の時代	アジア交易世界の興隆																			
			ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容																			
		アジアの諸帝国の繁栄	オスマン帝国とサファヴィー朝																			
			ムガル帝国の興隆																			
			清代の中国と隣接諸地域																			

				11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
		近世ヨーロッパ世界の動向	ルネサンス															
			宗教改革															
			主権国家体制の成立															
			オランダ・イギリス・フランスの台頭															
			北欧・東欧の動向															
			科学革命と啓蒙思想															
		産業革命と環大西洋革命	産業革命															
			アメリカ合衆国の独立と発展															
			フランス革命とナポレオンの支配															
			中南米諸国の独立															
		イギリスの優位と欧米国民国家の形成	ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動															
			列強体制の動揺とヨーロッパの再編成															
			アメリカ合衆国の発展															
			19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄															
		アジア諸地域の動揺	西アジア地域の変容															
			南アジア・東南アジアの植民地化															
			東アジアの激動															

教科	科目	単位数	対象学年
地歴	地理探究	3	5年

1．学習の到達目標等

到達目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域の歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
目標を達成するための留意点	社会的事象の本質を見極めることのできる力をつけるために、多面的な知識を活用していくことを主眼において授業を展開する。そのためには社会（身の回り、社会で起こっていること）に興味を持ち、自分からグローバル社会に飛び込んでいく姿勢が必要となる。
使用教科書	新詳地理探究(帝国書院）、新詳高等地図初訂版(帝国書院)
使用副教材	新詳地理資料（帝国書院)、サクシード地理(啓隆社)、データブック(二宮書店)
評価基準	知識・理解／思考力・判断力・表現力／主体的に学習に取り組む態度　それぞれの項目に関して，授業・定期考査・課題等を通して総合的に評価する。
学習内容	【資源と産業】 世界の農林水産業／食糧問題／世界のエネルギー・鉱産資源／資源・エネルギー問題／世界の工業／第３次産業／世界を結ぶ交通・通信／現代世界の貿易と経済圏 【村落・都市】 村落と都市／都市・居住問題 【生活文化、民族・宗教】 世界の衣食住／民族と宗教／現代世界の国家／民族・領土問題

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
5年	地理探求	資源と産業	農林水産業		■	■	■																													
			食料問題				■																													
			エネルギー・鉱産資源						■																											
			資源・エネルギー問題							■																										
			工業								■	■		■																						
			第3次産業														■																			
			交通・通信															■																		
			貿易																■																	
		都市・村落	村落と都市																	■		■														
			都市・居住問題																				■	■												
		生活文化、民族・宗教	衣食住																						■		■									
			民族と宗教																										■	■						
			国家																												■	■				
			民族・領土問題																														■		■	

教科	科目	単位数	対象学年
公民	公共	2	5年

1．学習の到達目標等

到達目標	○ 現代の諸課題を捉え考察し，選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解するとともに，諸課題の解決に向けて，公共的な空間における基本的原理を活用し，事実をもとに多面的・多角的に考察し，公正に判断する力や，社会参画を視野に入れながら構想したことを議論し合意形成する力を養う。
目標を達成するための留意点	○学習内容について，具体的な事例を用いて考えさせることで，生徒が自分の生き方と関連付けて理解できるようにするとともに，そのことにより生徒の意見を引き出すようにする。 ○学習課題の解決のための資料等を複数提示することにより，生徒が適切な資料等を自ら選択し，さまざまな視点から考えを表現できるようにする。 ○ICT 教材を活用することにより，アクティブラーニングを促す。
使用教科書	高等学校　新公共（第一学習社）
使用副教材	最新図説　公共（浜島書店）　新公共要点ノート(啓隆社)
評価基準	知識・理解／思考力・判断力・表現力／主体的に学習に取り組む態度　それぞれの項目に関して，授業・定期考査・課題等を通して総合的に評価する。
学習内容	【 公共的な空間をつくる私たち 】 社会に生きる私たち／個人の尊厳と自主・自律／多様性と共通性／伝統文化とのかかわり／自立した主体をめざして 【 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 】 人間と社会のあり方についての見方・考え方 【 公共的な空間における基本的原理 】 人間の尊厳と平等，個人の尊重／民主主義と法の支配／自由・権利と責任・義務／日本国憲法に生きる基本的原理 【 法的な主体となる私たち 】 法や規範の意義と役割／契約と消費者の権利・責任／司法参加の意義 【 政治的な主体となる私たち 】 政治参加と公正な世論形成／国際社会と国家社会／日本の安全保障と防衛／国際社会の変化と日本の役割 【 経済的な主体となる私たち 】 雇用と労働問題／社会の変化と職業観／市場経済の機能と限界／金融のはたらき／財政の役割と社会保障／経済のグローバル化

２．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
5	倫理	公共的な空間をつくる私たち	社会に生きる私たち					1学期中間考査						1学期期末考査							2学期中間考査						2学期期末考査									学年末考査		
			個人の尊厳と自主・自律																																		
			多様性と共通性																																		
			伝統文化とのかかわり																																		
			自立した主体をめざして																																		
		公共的な空間における人間としてのあり方生き方	人間と社会のあり方についての見方・考え方																																		
		公共的な空間における基本的原理	人間の尊厳と平等，個人の尊重																																		
			民主主義と法の支配																																		
			自由・権利と責任・義務																																		
			日本国憲法に生きる基本的原理																																		
		法的な主体となる私たち	法や規範の意義と役割																																		
			契約と消費者の権利・責任																																		
			司法参加の意義																																		
		政治的な主体となる私たち	政治参加と公正な世論形成																																		
			国際社会と国家社会																																		
			日本の安全保障と防衛																																		
			国際社会の変化と日本の役割																																		
		経済的な主体となる私たち	雇用と労働問題																																		
			社会の変化と職業観																																		
			市場経済の機能と限界																																		
			金融のはたらき																																		
			財政の役割と社会保障																																		
			経済のグローバル化																																		

教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学Ⅱ＋数学Ⅲ	4(1＋3)	5年理系

1. 学習の到達目標等

到達目標	・数学Ⅱの積分法の学習を進め，既習内容を定着させる。 ・数学Ⅲは，5年次では計算を優先しつつ，論理的に理解する。
目標達成のための留意点	・数学Ⅱの積分法は，微分法の復習をしつつ，計算力を身に着けさせる。 ・数学Ⅲは，ⅠAⅡB の既習内容の延長上にあることを意識させ，既習内容を復習しつつ学習する。また計算力を強化する。伴って，なぜその計算をするのかなど，理由付けにも注力する。
教科書	数学Ⅱ(数研出版) 数学Ⅲ(数研出版)
副教材	4STEP 数学Ⅱ完成ノート 微分法と積分法 (数研出版) 4STEP 数学Ⅲ完成ノート 関数，極限 (数研出版) 4STEP 数学Ⅲ完成ノート 微分法とその応用 (数研出版) 4STEP 数学Ⅲ完成ノート 積分法とその応用 (数研出版)
評価方法	定期考査，BC，提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また，課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し，総合的に評価する。
授業内容	[数学Ⅱ] 第6章 第2節 不定積分や定積分の原理を学び，積分の練習をする中で計算力を養う。 [数学Ⅲ] 第1章 関数 分数関数・無理関数・合成関数・逆関数など種々の関数とそのグラフについて学ぶ。 第2章 極限 導関数を計算するための極限を学ぶ.。 第3，4章 微分法，微分法の応用 導関数の計算及び，増減，凹凸の考察の仕方を学び，様々なグラフを描く。 第5章 積分法 微分の逆演算としての積分計算を練習し，様々な積分を求めれるようにする。

2. 授業進度表

		4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3		
科目	項　目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
数学Ⅱ	積分法					1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
数学Ⅲ	関数																																				
	極限																																				
	微分法																																				
	微分法の応用																																				
	積分法																																				

教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学Ⅱ	3	5年文系

1．学習の到達目標等

到達目標	・数学Ⅱの積分法の学習を進め，既習内容を定着させる。 ・数学ⅠAⅡBの既習内容を定着させる。 ・自らの力で基本的な問題を解くことができる。
目標達成のための留意点	・数学Ⅱの積分法は，微分法の復習をしつつ，計算力を身に着けさせる。 ・校外模擬模試で偏差値 60 以上が取れる習熟度を目指す。 ・応用問題も，基本的な問題の組み合わせでできていることを意識させ，定義や定理を理解し使えるように練習させる。
教　科　書	数学Ⅰ（数研出版）　数学A（数研出版） 数学Ⅱ（数研出版）　数学B（数研出版）
副　教　材	4STEP　数学Ⅱ完成ノート　微分法と積分法　（数研出版） 2024　大学入学共通テスト直前実践問題集　数学ⅠA　プレノートFull　（数研出版） 2024　大学入学共通テスト直前実践問題集　数学ⅡB　プレノートFull　（数研出版）
評 価 方 法	定期考査，BC，提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また，課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し，総合的に評価する。
授業内容	［数学Ⅱ］ 第6章　第2節 不定積分や定積分の原理を学び，積分の練習をする中で計算力を養う。 ［数学ⅠAⅡB復習］ 教科書・プリントを用いて，基本事項の再確認を行う。 ［数学ⅠAⅡB演習］ 問題演習を通して，基本事項の再構築を行い，定着しているか確認する。

2．授業進度表

		4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3		
科目	項　目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
数学Ⅱ	積分法					1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
	数学ⅠAⅡBの復習																																				
	数学ⅠAⅡBの演習																																				

教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学 B	2	5年理系

1. 学習の到達目標等

到達目標	下記学習内容を理解させ，基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。特に， ・「ベクトル」の学習では，その演算の習得・習熟と図形問題への応用を理解することにより，他の単元との関連性・差異性・有用性に気づかせる。 ・「統計的な推測」では，確率変数と期待値などの考え方を学び，そのような確率論の方法を生かして現実の調査で得られるデータからその意味を見出す考え方を身に付ける。 ・ ・校外模擬模試で偏差値 60 以上が取れる習熟度を目指す。
目標達成のための留意点	・複素数平面は，ベクトル，図形と方程式など，数学Ⅱ・B の 延長線上にあることを意識し学習させる。 ・一つひとつの知識を体系的に整理できるような問題を取り扱うように心がける。 ・応用問題も基本的な問題の組み合わせでできていることを意識させる。
教科書	数学 B（数研出版），　数学 C（数研出版）
副教材	大学入試 全レベル問題集 数学 I+A+II+B 1 基礎レベル 新課程 リンク数学演習 III・C〔複素数平面，式と曲線〕受験編 approach
評価方法	定期考査，BC，提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また，課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し，総合的に評価する。
授業内容	【数学 B】 第4章　統計的な推測 確率変数とその分布，標本調査，統計的な推測を学ぶことで，不確定な事象の考察をする。 第 3 章　複素数平面 複素数平面と複素数の極形式について学び，複素数の実数倍・和・差・積・商の図形的な意味を理解し，活用する。 第 4 章　式と曲線 平面上の曲線がいろいろな式で表されることを理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。特に，2次曲線（放物線・楕円・双曲線）の基本的な性質について学ぶ。

2. 授業進度表

		4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3		
科目	項　目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
数学B	統計的な推測					1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
	複素数平面																																				
	式と曲線																																				
	1A2Bの復習																																				

教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学Ｂ	2	5年文系

1．学習の到達目標等

到達目標	下記学習内容を理解させ，基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。特に， ・「ベクトル」の学習では，その演算の習得・習熟と図形問題への応用を理解することにより，他の単元との関連性・差異性・有用性に気づかせる。 ・「統計的な推測」では，確率変数と期待値などの考え方を学び，そのような確率論の方法を生かして現実の調査で得られるデータからその意味を見出す考え方を身に付ける。 ・数学ⅠＡⅡＢの既習内容を定着させる。 ・校外模擬模試で偏差値 60 以上が取れる習熟度を目指す。
目標達成のための留意点	・一つひとつの知識を体系的に整理できるような問題を取り扱うように心がける。 ・応用問題も基本的な問題の組み合わせでできていることを意識させる。
教科書	数学Ｂ(数研出版)，　数学Ｃ(数研出版)
副教材	大学入試　全レベル問題集　数学 I+A+II+B 1 基礎レベル 基本から身につける数学 1・A の計算力 基本から身につける数学 2・B の計算力
評価方法	定期考査，BC，提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また，課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し，総合的に評価する。
授業内容	数学Ｂ 第4章　統計的な推測 　　確率変数とその分布，標本調査，統計的な推測を学ぶことで，不確定な事象の考察をする。 ［数学ⅠＡⅡＢの演習］ 　プリント・副教材を用いて，基本事項の再確認を行う。

2．授業進度表

		4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3		
科目	項　目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
数学B	統計的な推測					1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
	数学1A2Bの復習																																				

教科	科目	単位数	対象学年
理科	物理(理系)	4	5年

1．学習の到達目標等

到達目標	物理への関心意欲を高め，基本事項をよく理解し，物理的なものの見方や考え方を身に付ける。	
目標を達成するための留意点	受動的な姿勢で教えを待つのではなく，能動的に理解しようとする姿勢を意識させる。 演習を通じて，学習内容を確認し，思考力や応用力を養う。	
使用教科書	「高等学校　物理」（啓林館出版）	
使用副教材	「センサー　物理」（啓林館出版） 「良問の風」（河合出版）	
評価基準	・定期試験　・課題提出　・授業への意欲により総合的に判断する。	
学習内容	第１部　様々な運動 第１章　物体の運動 ・平面内の運動 ・落下の運動 第２章　剛体のつり合い ・剛体のつり合い 第３章　運動量と力積 ・運動量の保存 ・衝突と力学的エネルギー 第４章　円運動と単振動 ・円運動 ・慣性力 ・単振動 第５章　万有引力 ・万有引力	第２部　熱 第１章　気体分子の運動 ・気体の状態方程式 ・気体分子の熱運動 ・熱力学第１法則 ・気体の状態変化と熱・仕事 第３部　波 第１章　波の性質 ・正弦波の表し方 ・波の伝わり方 第２章　音 ・音の性質 ・ドップラー効果 第３章　光 ・光の性質 ・レンズと球面鏡 ・光の回折と干渉 第４部　電気と磁気 第１章　電界と電位

2．指導計画

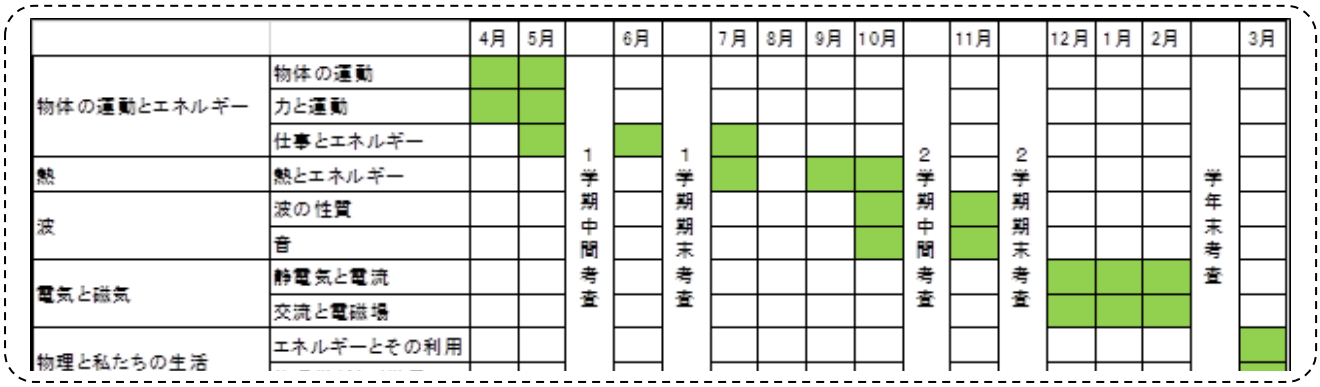
		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
様々な運動	物体の運動	■	■	1学期中間考査		1学期期末考査					2学期中間考査		2学期期末考査				学年末考査	
	剛体のつり合い	■	■															
	運動量と力積		■		■													
	円運動と単振動				■		■		■									
	万有引力						■		■	■								
熱	気体分子の運動									■		■						
波	波の性質											■						
	音											■		■				
	光													■	■	■		
電気と磁気	電界と電位															■		■

教科	科目	単位数	対象学年
理科	物理(文系)	2	5年

1．学習の到達目標等

到達目標	物理的な事物･現象に対する探究心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，科学的に探究する能力と態度を身につけるとともに，物理学の基本的な概念や原理･法則の理解を深め，科学的な自然観を育成する。
目標を達成するための留意点	学習のアドバイス等 1　日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち，その法則性について考える態度をもつこと。 2　疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。 3　演習を通じて、学習内容を確認し、思考力や応用力を養うこと。
使用教科書	「考える物理基礎」(啓林館出版)
使用副教材	「センサー　物理基礎」(啓林館出版) 「共通テスト対策チェック＆演習 物理基礎」(数研出版)
評価基準	・定期試験　・課題提出　・授業への意欲 により総合的に判断する。
学習内容	第1部「運動とエネルギー」，第2部「熱」，第3部「波」，第4部「電気」，第5部「物理学と社会」の各部において，物理現象を観察，実験などを通して探究し，それらの基本的な概念や法則を理解し，物理現象とエネルギーについての基礎的な見方や考え方を身につける。

2．指導計画



教科	科目	単位数	対象学年
理科	化学(理系)	3	5年

1．学習の到達目標等

到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め，目的意識を持って観察，実験などを行い，化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに，化学の基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的な見方や考え方を養う。
目標を達成するための留意点	受動的な学習姿勢ではなく，能動的な学習姿勢を意識させる。 演習を通じて、学習内容を確認し、思考力や応用力を養う。
使用教科書	「改訂　化学（理論編）」（東京書籍） 「改訂　化学（物質編）」（東京書籍）
使用副教材	「セミナー化学」（第一学習社）
評価基準	＊主体的に学習に取り組む態度 ＊思考・判断・表現 ＊知識・技能 の３つの観点をもとに総合的に評価する。
学習内容	2編　化学反応とエネルギー 1章　化学反応と熱・光 2章　電池と電気分解 3編　化学反応の速さと平衡 1章　化学反応の速さ 2章　化学平衡 3章　水溶液中の化学平衡 4編　無機物質 1章　周期表と元素 2章　非金属元素の単体と化合物 3章　典型金属元素の単体と化合物 4章　遷移元素の単体と化合物 5章　金属イオンと分離と確認

2．指導計画

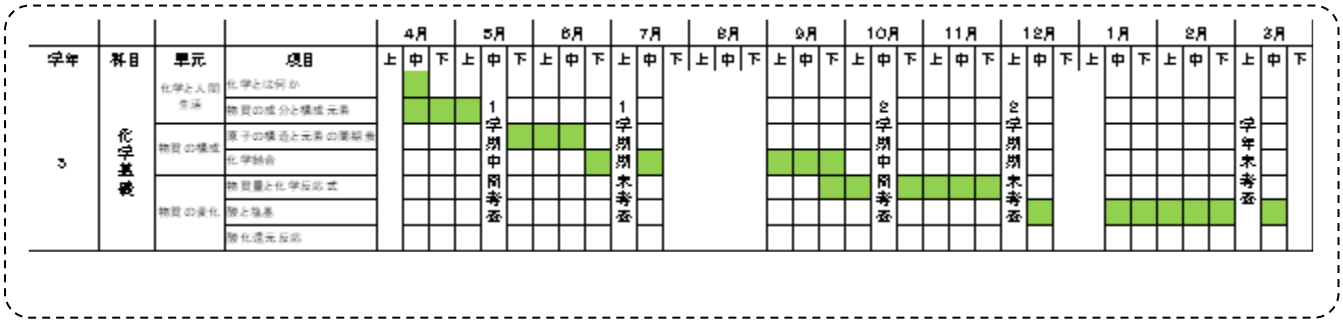
		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
化学反応とエネルギー	化学反応と熱・光	■	■	1学期中間考査		1学期期末考査					2学期中間考査		2学期期末考査				学年末考査	
	電池と電気分解		■		■													
化学反応の速さと平衡	化学反応の速さ				■		■											
	化学平衡						■		■	■								
	水溶液中の化学平衡									■		■						
無機物質	周期表と元素											■		■				
	非金属元素の単体と化合物													■	■			
	典型金属元素の単体と化合物														■	■		
	遷移元素の単体と化合物															■		■
	金属イオンの分離と確認																	■

教科	科目	単位数	対象学年
理科	化学(文系)	2	５年

１．学習の到達目標等

到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め，目的意識を持って観察，実験などを行い，化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに，化学の基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的な見方や考え方を養う。
目標を達成するための留意点	受動的な学習姿勢ではなく，能動的な学習姿勢を意識させる。 演習を通じて、学習内容を確認し、思考力や応用力を養う。
使用教科書	「化学基礎」（東京書籍）
使用副教材	「セミナー　化学基礎」（第一学習社） 「共通テスト対策チェック＆演習　化学基礎」（数研出版）
評価基準	＊主体的に学習に取り組む態度 ＊思考・判断・表現 ＊知識・技能 の３つの観点をもとに総合的に評価する。
学習内容	科学と人間生活 　科学とは何か 　物質の成分と構成元素 物質の構成 　原子の構造と元素の周期表 　化学結合 物質の変化 　物質量と化学変化 　酸と塩基 　酸化還元反応

２．指導計画



教科	科目	単位数	対象学年
理科	生物（理系）	4	５年

１．学習の到達目標等

到達目標	生物や生物現象に対する探究心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに，生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的な自然観を育成する。
目標を達成するための留意点	受動的な学習姿勢ではなく，能動的な学習姿勢を意識させる。 演習を通じて，学習内容を確認し，思考力や応用力を養う。
使用教科書	「生物」（東京書籍）
使用副教材	「リードα　生物」（数研出版） 「フォトサイエンス生物」（数研出版）
評価基準	＊主体的に学習に取り組む態度 ＊思考・判断・表現 ＊知識・技能 の３つの観点をもとに総合的に評価する。
学習内容	１編：生物の進化 １章：生命の起源と細胞の進化 ２章：遺伝子の変化と進化のしくみ ３章：生物の系統と進化 ２編：生命現象と物質 １章：細胞と物質 ２章：代謝とエネルギー ３編：遺伝情報の発現と発生 １章：遺伝情報とその発現 ２章：発生と遺伝子発現 ３章：遺伝子を扱う技術

２．指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
生物の多様性と生態系	生命の起源と細胞の進化	■		1学期中間考査		1学期期末考査					2学期中間考査		2学期期末考査				学年末考査	
	遺伝子の変化と進化のしくみ		■		■													
	生物の系統と進化				■		■											
生命現象と物質	細胞と物質								■	■								
	代謝とエネルギー									■		■						
遺伝情報の発現と発生	遺伝情報とその発現											■		■				
	発生と遺伝子発現														■	■		
	遺伝子を扱う技術																	■
生物の環境応答	動物の刺激の受容と反応																	
	動物の行動																	
	植物の環境応答																	
生態と環境	個体群と生物群集																	
	生態系の物質生産と物質循環																	
	生態系と人間生活																	

教科	科目	単位数	対象学年
理科	生物（文系）	2	５年

１．学習の到達目標等

到達目標	生物や生物現象に対する探究心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに，生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的な自然観を育成する。
目標を達成するための留意点	受動的な学習姿勢ではなく，能動的な学習姿勢を意識させる。 演習を通じて，学習内容を確認し，思考力や応用力を養う。
使用教科書	「生物基礎」（東京書籍）
使用副教材	「リードα　生物基礎」（数研出版） 「共通テスト対策チェック＆演習　生物基礎」（数研出版）
評価基準	＊主体的に学習に取り組む態度 ＊思考・判断・表現 ＊知識・技能 の３つの観点をもとに総合的に評価する。
学習内容	入試対策演習

２．指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
生物の特徴	生物の多様性と共通性	■		1学期中間考査		1学期期末考査					2学期中間考査		2学期期末考査		■	■	学年末考査	■
	生物とエネルギー		■												■	■		■
遺伝子とそのはたらき	遺伝情報とDNA				■										■	■		■
	遺伝情報とタンパク質						■								■	■		■
ヒトの体の調節	体内環境と情報伝達								■						■	■		■
	免疫のはたらき									■					■	■		■
生物の多様性と生態系	植生と遷移											■			■	■		■
	生態系と生物の多様性													■	■	■		■

教科	科目	単位数	対象学年
保健体育	体育	2	5年

1．学習の到達目標等

到達目標	各種の運動の合理的な実践をとおして、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動することのできる資質や能力を身につける。
目標を達成するための留意点	・各運動の基本的技能を身につける。 ・年間を通じての基礎トレーニングにより、体力の向上を図る。 ・規律規範を守る。
使用教科書	現代高等保健体育（大修館）
使用副教材	現代高等保健体育　ノート（大修館）、最新スポーツルール（大修館）
評価基準	【知識及び技能】 運動の合理的な実践を通して、各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身につけている。また、運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。 【思考力，判断力，表現力等】 生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。 【学びに向かう力，人間性等】 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身につけるとともに、健康・安全に留意して自ら運動しようとする。 以上の観点を踏まえ、授業の取り組み（授業態度や学習活動への参加状況）などから総合的に判断します。
学習内容	下記の　2．指導計画参照。 【体育理論】豊かなスポーツライフの設計の仕方

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
5	体育	集団行動			■	■	■												■																				
		体つくり運動			■	■	■	1					1						■				2					2											
		新体力テスト			■	■	■	学					学										学					学									学		
		陸上						期					期										期					期	■		■	■	■				年		
		ダンス						中					期										中					期									末		
		武道						間					末										間					末									考		
		球技	ゴール型、ネット型、ベースボール型					考	■	■	■	■	考	■						■	■	■	考					考				■	■	■			査	■	
		器械運動						査					査										査	■	■	■	■	査											
		体育理論	豊かなスポーツライフの設計																					■	■						■	■							

教科	科目	授業時数	対象学年
家庭	家庭基礎	2	5年

1．学習の到達目標等

到達目標	生活を充実・向上しようとする実践的な態度を持つことができる。 家庭生活の意義や社会とのかかわりを理解し、男女が協力して家庭や地域の生活課題を主体的に解決する能力と態度を身につける。
目標を達成するための留意点	各分野の基礎的・基本的な知識や技術を、実践的・体験的な学習を通して習得する。 実習の際には、実習費・裁縫道具・エプロン・三角巾・ふきん・マスクが必要。
使用教科書	Survive!!　高等学校　家庭基礎　(教育図書)
使用副教材	プリント教材　他
評価基準	授業、実習での意欲関心 定期テスト、課題・作品
学習内容	1章　消費生活・環境 2章　衣生活 3章　食生活 4章　住生活 5章　子どもの保育 6章　高齢期の生活 7章　共生生活 8章　青年期・家族

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年	家庭	1章 消費生活・環境	1 オトナって何だろう?【成年年齢の引き下げ】等					1学期中間考査					1学期期末考査										2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
		2章 衣生活	8 毎日がファッションショー! ?【人と衣服】等																																				
		3章 食生活	14 がんばった自分にご褒美だ!【人と食生活】等																																				
		4章 住生活	20 こんな家, 出て行く!?【人と住まい】等																																				
		5章 子どもの保育	25 ホントに大きくなるのかな…?【子どもの発達】等																																				
		6章 高齢期の生活	29 私が高齢者?!【高齢期を理解する】等																																				
		7章 共生生活	32 トイレに行きたいのに!!【ともに生き, 支え合う社会】等																																				
		8章 青年期・家族	33 友達に愛を告白された!【青年期を生きる】等																																				

教科	科目	単位数	対象学年
英語	英語コミュニケーションⅡ・Ⅲ	4	5年

1．学習の到達目標等

到達目標	多様な題材に触れ ・テキストを正確に理解し、それが前提としていることや背景にあることを推論する。 ・その内容について深く理解する。 ・題材をもとに、「聞く、読む、話す、書く」の４技能を有機的に関連付けつつ、総合的なコミュニケーション能力を養成する。
目標を達成するための留意点	・英語は継続して取り組むことで成果へとつながるので，課題も含め，毎日英語に触れるよう指導計画を作成する。 ・受験にも対応できる力を養成する。
使用教科書	Element English CommunicationⅡ・Ⅲ（啓林館）
使用副教材	システム英単語（駿台文庫） Hyper Listening Intermediate(桐原) 共通テストドリル英語リーディング・リスニング 10minutes（Z 会）
評価基準	①授業中に生徒の言語活動の取り組み状況を観察する。（思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ②言語活動への取り組みを評価する。（知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ③テーマに関連した活動に使える表現について理解しているかを筆記テストする。（知識・技能）小テスト／中間・期末考査／評価問題など ④上記課題の内容や提出状況（知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度）
学習内容	・多様な話題の文章を読み解き、内容に興味を持ち、考える。 ・スピーチ、インタビュー、プレゼンテーション、レポート、レクチャー、対話文、説明文、物語といった多様な種類の文章の特徴に注目し、それらの表現方法を学ぶ。 ・上記の題材を読んだり聞いたりして理解し、考えた内容を書いたり話したりして発信することによって、４技能を統合する。 ・大学受験に耐えうる長文読解力(速読、精読)、共通テストのリスニングに対応できる聴解力・情報処理能力を養う。

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	内容	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
5年	コミュ英語Ⅱ	Lesson 6	Caddy for Life					1学期中間考査					1学期期末考査										2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
		Lesson 7	iPS Cells																																				
		Lesson 8	Selective Breeding																																				
		Lesson 9	The Vancouver Asahi																																				
		Lesson 10	Euglena																																				
	コミュ英語Ⅲ	Lesson 1	Lies, Damned Lies, and Statistics																																				
		Lesson 2	Language Extinction																																				
		Lesson 3	Language Extinction																																				
		Lesson 4	The Truth about Grit																																				
		Lesson 5	A Class from Stanford University																																				
		Lesson 6	The Mpemba Effect																																				

教科	科目	単位数	対象学年
英語	論理・表現Ⅱ	2	5年

1．学習の到達目標等

到達目標	・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する ・事実や意見などを多様な観点から考察し，論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養うことを目指す ・英語によるコミュニケーション力の育成を目指して、生徒の英語による言語活動の機会を十分に設ける。コミュニケーションのできる英語を目標に会話だけにとどまらない４技能の基礎作りの場とする。
目標を達成するための留意点	・英語は継続して取り組むことで成果へとつながるので，課題も含め，毎日英語に触れるよう指導計画を作成する。 ・受験にも対応できる力を養成する。
使用教科書	FACTBOOK English Logic and Expression Ⅱ（桐原）
使用副教材	FACTBOOK 総合英語(桐原)　スタディサプリ English（リクルート）
評価基準	①授業中に生徒の言語活動の取り組み状況を観察する。（思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ②言語活動への取り組みを評価する。（知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ③テーマに関連した活動に使える表現について理解しているかを筆記テストする。（知識・技能）小テスト／中間・期末考査／評価問題など ④上記課題の内容や提出状況（知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度）
学習内容	・身近にある様々なトピックについて英語で表現する。また、その表現内容を何度も繰り返し使用することで体得する。 ・発信に重点を置き、与えられたトピックでフリートークを行ったり、準備をしてスピーチを行ったりスピーキング、パラグラフ展開等を学んだ上で様々な種類の文章を書くライティングの練習や英語によるプレゼンテーション、ディスカッションなどを行う。 ・文法問題、作文問題に対する受験演習。 ・ネイティブ教員と日本人教員の TT により、よりオーセンティックな学習素材に触れ、その素材を基に英語での意見論述などを行う。

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	内容	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
4年	論理・表現Ⅰ	Unit 1	How should we lead a health lifestyle?																																				
		Unit2	Steps we can take to Zero Hunger																																				
		TL1	Donating the right kind of food																																				
		Unit 3	What are good and bad sides of urbanization																																				
		Unit 4	Is your city sustainable enough																																				
		TL2	Well-managed city for the future																																				
		Unit5	Which should get more																																				
		Unit 6	How to live a plastic-free life																																				
		TL3	Thinking globally, acting locally																																				
		Unit 7	Helping others at home and abroad																																				
		Unit 8	Challenge to equality																																				

学期中間考査　1学期期末考査　2学期中間考査　2学期期末考査　学年末考査